

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成23年12月22日現在

## 今月の重点活動

### ■オープンハウス 展示ほ場完成

(活力ある新産地づくり支援事業：アスパラガス)

本事業を活用して、省エネとコスト削減を狙って普及を進めている、オープンハウスの展示実証ハウスが完成した。

2月に苗を定植して、株養成に入る計画で着々と展示実証の準備を進めている。現在もこのハウスを活用して、構造現地研修会、視察対応を行っている。

【写真 アスパラガスのオープンハウス】



### ■果宝柿選果支援

糸貫選果場では袋掛け富有柿（おふくろ柿）が12月8日～16日まで出荷された。その中から重さ350g以上、果色カラーチャート7以上、糖度18度以上でキズ等が無く、ブルームがしっかり付着している果実を「果宝柿」として選果し、東京・名古屋の果実専門店等で5L5,000円（2個入り）、4L6,000円（3個入り）で販売された。農業普及課では選果支援を行い、管内で143個、県内では総計304個の出荷となった。

【写真 「果宝柿」の選果支援】



## 主要農作物の生産振興

### ■水稻 (営農指導員に対する土づくりの啓発)

12月7日にJAぎふは各支店の営農指導員に対して次年度水稻栽培暦の説明会を開催した。農業普及課からは今年の水稲の生育状況及び次年度に向けての栽培ポイントについて情報提供した。土づくりが近年実施されない傾向にあることから、特に土づくりの推進について啓発した。

### ■アスパラガス 3回JAぎふアスパラ塾

JAぎふは12月14日、羽島市にあるJAぎふ正木支店で「第3回JAぎふアスパラ塾」を開催した。今回は、アスパラガス栽培の基本技術となる株養成から茎葉刈り取りまでの一連作業内容の習得やオープンハウス仕組み等について農業普及課が講師を務めた。塾生は、3回目の塾となり、具体的な栽培管理について理解が深まり、導入に向けて準備を進めている塾生も現れている。面積拡大に期待が持てる塾となった。

【写真 アスパラ塾での講習会指導】



### ■だいこん

#### 祝大根

12月21日から28日まで22万束（前年比95%）の出荷見込み。農業普及課では出荷予測情報を提供した。（本年は暖冬で肥大が進んでいる）JA作業受託実証も併せて始まる。

#### 守口大根

12月17日に守口大根育種（F1、茜守口）収量調査を実施した。11月29日から1月中旬まで出荷予定（契約数量前年比（104%））。年内出荷分は播種が遅れたため、歩留まりがやや低下傾向で

あるが、年明け出荷分の生育は順調に推移している。

## ■にんじん **冬にんじん出荷ピークすぎる**

冬にんじんを現在出荷中。今年の生産規模は64戸、23.1ha。先週で70千ケースを超えた。全体目標は80千ケース。11月出荷分は44千ケース（H22は66千ケース）、8月23日の大雨の影響は小さくなく、生産量・品質が低下した。

＜参考：平成22年冬にんじん68戸、28.9ha、966t、125,271千円＞

## ■かき

### **柿出荷終了！**

管内の柿選果場では袋柿の出荷のあった糸貫選果場の12月16日を最後に、かきの出荷が終了した。富有柿をみると全体的に出荷量は前年比150%前後（岐阜市204%、糸貫176%、真正111%、瑞穂市142%、北方129%、羽島73%）となり、単価は前年比80%程度の結果となった。

### **次年度に向け、間伐・せん定指導を開始！**

各振興会では次年度の柿生産に向けて間伐・せん定講習会が12月10日の糸貫振興会真正地区を皮切りに岐阜市かき共販振興会では16日から21日、瑞穂市、糸貫地区では17日、北方では20日と行われた。各産地とも間伐の重要性を説明し、実技を交えて指導した。

今後は各地区独自の研究会、学習会、グループ等の研修会が予定されており、次年度の高品質な柿の生産に向けての取り組みが始まった。また、産地維持のためシルバー人材センターの利用も増え始めており、本巣市では毎年、瑞穂市でも今年度から講習会が開催される。

【写真 剪定講習会指導】



## ■いちご

### **（トピックス） 飛騨美濃特産名人に北川氏が認定**

「飛騨美濃特産名人」に岐阜市園芸特産振興会いちご部会の北川部会長が認定され、12月13日に授与式が県庁で行われた。北川さんは、長年、地域のリーダーとしてまた指導農業士として、特に新規就農者の支援に積極的に取り組み、若手の農家の育成やいちごを生食だけでなく、加工品利用を進めるため商工連携にも力を入れてきました。これからも地域のリーダーとして活躍が期待されます。

## 担い手の育成・確保

### ■営農組合 **（各務原営農組合加工用キャベツ収穫）**

各務原市の2営農組合が今年度から加工用キャベツ栽培に取り組んだ。蘇原地区で約20a、各務地区で36a栽培し、農業普及課は病虫害発生状況の把握及び、防除指導を行った。11月29日から12月19日まで間で延べ6日間収穫作業を行った。目標収量（6t/10a）を目指していたが、小玉果、虫害等により各ほ場では5～6tとなった。

【写真 キャベツの収穫状況】



## ■うすずみファーム（ユニオン）

### **ブロッコリーの出荷開始**

11月末よりブロッコリーの出荷を開始した。農業普及課では12月7日に経営改善提案を実施し、12月22日に今年度の反省会を行い、来年作付けの検討を行った。